

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

事業名 豚熱対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫対策係 電話番号：058-272-1111 (内 2879)

E-mail：c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 70,754 千円 (前年度予算額：104,272 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	104,272	28,165	0	0	0	0	0	0	76,107
要求額	70,754	18,393	0	0	0	0	0	0	52,361
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・平成30年9月以降県内で発生した豚熱については、野生いのししによる豚への感染が危惧されるため、国の通知に基づき、アフリカ豚熱も含めた死亡いのししの感染確認検査を行っている。
- ・このほか、養豚農場の経営再開に向けた支援及び防疫資材の保管等、防疫対応に関する事業を行っており、継続して行っていく必要がある。

(2) 事業内容

- ・中央家畜保健衛生所 (病性鑑定分室) の運営
野生いのししの豚熱及びアフリカ豚熱の感染確認検査を実施
- ・死亡いのししの運搬・消毒
検査施設までの死亡いのししの運搬・消毒等を外部委託
- ・養豚農場の経営再開の支援
豚熱発生農場の豚の再導入前に、民間の養豚専門獣医師による再開審査、農場内の環境検査及び農場周辺の水質検査を実施
- ・公用携帯電話借上 (防疫対応用)

- ・防疫資材保管料（防疫対応用）
- ・フォークリフトオペレーターの養成
家畜伝染病防疫措置において運搬業務に従事する職員がフォークリフト運転技能講習を受講

（３）県負担・補助率の考え方

国 10/10（検査薬品費）、国・県 1/2（衛生・検査資材費、いのしし運搬）
県 10/10（その他）

（４）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	180	民間獣医師報償費
旅費	510	職員旅費、民間獣医師費用弁償
需用費	52,629	検査薬品費、衛生・検査資材費、燃料費、光熱水費、修繕料等
役務費	4,285	検査機器校正、公用携帯電話利用料等
委託料	10,310	死亡いのしし運搬委託、検査施設法定点検委託等
使用料	2,123	防疫資材保管料等
負担金	717	フォークリフト講習受講料等
合計	70,754	

決定額の考え方

4 参考事項

（１）各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（R1～5）
2 健やかで安らかな地域づくり
(2)安らかに暮らせる地域
④災害と危機事案に強い岐阜県づくり
- ・新「ぎふ農業・農村基本計画」（R3～7）
(2)安心で身近な「ぎふの食」づくり
④家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
国の通知に基づき、野生いのししにおける豚熱及びアフリカ豚熱のサーベイランスを実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

野生いのししの豚熱・アフリカ豚熱検査については、国の通知により行っているものであるため、指標設定にはなじまない。

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
死亡及び捕獲いのししについて、豚熱ウイルスのPCR及びELISA検査を実施
また、死亡いのししの全頭及び捕獲いのししの一部について、アフリカ豚熱ウイルスのPCR検査を実施

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
野生いのししの豚熱感染状況を地域別に把握することが可能となる。
野生いのししにアフリカ豚熱が侵入した場合、早期に発見することで農場の防疫対策の強化を図ることができる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	野生いのししの豚熱・アフリカ豚熱感染状況を把握することにより、まん延リスクを軽減する。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	野生いのししの豚熱・アフリカ豚熱感染状況をほぼ毎日把握し、週に一度感染状況を発表している。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	野生いのししの梱包、消毒及び検査場所までの運搬を業者に委託しており、効率化が図られている。 また、リアルタイムPCRを導入し検査の効率化が図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 継続的な事業を実施するために、検査施設の維持管理、さらに効率的な検査体制の整備が必要。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 農場における豚熱・アフリカ豚熱の発生予防、発生時における早期対応が必要であることから継続して取り組む必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	